

日本看護歴史学会 會報

日本看護
歴史学会
第54号
2010年7月15日



バージニア・M・オルソン先生と日本看護歴史学会

日本看護歴史学会理事 大石 杉乃

バージニア・M・オルソン先生（以下、オルソン）は、2010年4月10日に95歳で逝去されました。

1947年5月、占領下の日本にGHQ看護課スタッフとして赴任し、初代看護課長グレース・E・オルト（以下、オルト）の一時帰国時に看護課長を務めたことより、2代目看護課長として知られています。

オルソンはスウェーデン人移民の次女として、1914年10月31日にシカゴで生まれました。幼い頃から、カベナント派のミッショナリーとして中国で保健婦活動をするのが夢でした。スウェーデン・カベナント病院看護学校を卒業し、臨床看護婦や保健婦として実践を積みました。これらはすべて、中国で保健婦として活動するためでした。1946年、中国では国民党と共産党の内乱が激しくなり、カベナント派教会は、ミッショナリーたちを中国に派遣することを中止しました。夢を閉ざされたオルソンは、第35回アメリカ看護婦協会大会会場の「日本に行きたいと思いませんか!」という紙が掲示されたブースで、オルトに出会いました。オルトはGHQで働く看護課スタッフをリクルートするために、遙々、日本から参加していました。この出会いにより、彼女が世界中で一番行きたくないと思っていた日本にやってきたわけです。

GHQ看護課スタッフ時代のオルソンは、主に公衆衛生看護コンサルタントとして活躍しました。また、彼女は、占領下、出国を許可されなかった日本産婆看護婦保健婦協会（日本看護協会）井上なつゑ会長の代わりにICN大会に日本代表として出席し、日本看護協会をICNに再加盟させました。その後は、原爆傷害調査委員会（ABCC）の保健婦指導者、ロックフェッラー財団看護コンサルタントとして、計7年8ヶ月、日本で活躍しました。



オルソンと著者（シカゴで；
2003年9月22日撮影）

1956年にはシカゴ大学、1963年にはイリノイ大学看護学部で教職に就きました。1970年にイリノイ大学教授となり、1984年に同大学看護学部の名誉教授に就任しました。シカゴからICN東京大会の運営をサポートしたり、イリノイ大学に留学した日本人看護師たちをサポートしたりしました。

1982年に、日本看護



「日本人看護師が、この
写真を撮影した頃の自分
をよく知っていて、懐か
しく思うはず」と言って
くださった写真
(撮影年月日不明)

協会は戦後の日本看護界に対するオルソンの貢献に対し、オルソンに外国人名誉会員第1号を授与しました。1991年には勲三等寶冠章が授与されました。一方、アメリカでは、1995年にはアメリカの看護学士院から「生き証人」として認定され、2000年にはアメリカ看護協会から「最高顧問賞」を授与されました。

オルソンは、日本滞在中に、バイブルクラスを主宰し、日本の少女たち（オルソンは“ガール”と呼んでいた）の教育も行いました。

バイブルクラスの“ガール”のなかには、オルソンに憧れて看護の道に進んだ者もいました。看護関係者や“ガール”の方々から、「オルソン先生の活躍を記録に残してほしい」と励まされ、オルソンの希望もあって、2004年に原書房から『バージニア・オルソン物語』を出版しました。

執筆中、何回かシカゴに住むオルソンを訪ねました。その都度、私が少しでも多くの成果をもって日本に帰れるよう、できる限りの準備をしてくださいました。前もって郵送しておいた質問項目には、特徴のある小さな文字でメモが書き込まれ、その場で尋ねた質問に対しては、記憶を呼び起こしながら語ってくださいました。知っていて回答できること、記憶にないことを明確に区別しながら、答えてくださいました。オルソンの誠実さと、事実を正確に伝えようとするインタビューの対象者としての姿勢を強く感じ取ることができました。

オルソンは、「歴史研究をする人たちには、自分のこと、占領下のこと、GHQスタッフともに活躍した日本人リーダーたちを知って欲しい」という希望を持ち、本学会のためにビデオメッセージをくださいました。2005年に本学会の学術集会会場入口で紹介しました。

日本看護歴史学会は、看護職の後輩たちに、戦後の日本の混乱と当時の看護職が置かれていた実情、占領下に行われた看護改革、オルソンらGHQのスタッフと日本人看護婦リーダーたちの活躍を発掘し、後世に伝えていかなければならないと思います。

日本看護歴史学会第24回学術集会開催のお知らせ

学術集会会長 三上 れつ

会員の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。第24回学術集会は、2010年9月19日（日）・20日（月・祝日）の2日間、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスで開催致します。

メインテーマは福澤諭吉の教育基本方針である「実学」をもとに、看護の原点にたちもどって歴史を振り返り、現時点を確認して未来をひらいていきたいと考え、『今、実学を問うー歴史にみる看護教育実践活動ー』と致しました。1918年（大正7年）に始まった慶應看護教育は、2001年の看護医療学部の開設を経て、今年92年目を迎えました。現在、様々な意味で変化し続けているわが国の看護教育実践活動について、先人たちが作り上げてきた歴史から学び、皆様とともに看護の本質を再考し、これからの看護の方向性を討論し合う場にしたいと思っております。

第1日目のプログラムは、遠方からの移動もごございますので、午後からθ館（大講堂）で会長講演・特別講演・教育講演を開催致します。特別講演では、実学思想史・実学教育史がご専門の小室正紀先生から“実学”についてご講演いただきます。また、教育講演Ⅰでは女性史研究の白井堯子先生から、“F. ナイチンゲールと思想家J.S.ミルとの交流、そして福澤諭吉に至る英国思想の系譜”についてお話していただき、教育講演Ⅱでは医療史・塾史に造詣のある山内慶太先生から、正史では見えないものを史実として残していく“オーラルヒストリーの意義”についてご講演いただく予定です。

第2日目は看護医療学部校舎（写真）で、皆様の研究発表（口演10題・示説14題）や交流セッション6題の他、理事会主催の「看護界の出来事 2009年」展示、慶應看護の展示等を計画しております。また、昨年に引き続き、ワークショップ「これだけは備えておきたい～歴

史研究方法のキーポイントについて～第2弾」も企画しております。

皆様にお届けする講演集は9月上旬を予定しておりますが、この会報（54号）がお手元に届くころには詳細なプログラム・研究発表要領等もホームページに掲載する予定にしております。また、ホテルや交通アクセス、会場等の種々のご案内につきましても、ホームページに掲載しておりますので、ご活用いただければと存じます。

会場となる湘南藤沢キャンパスは交通が不便ではございますが、ゆったりとしたキャンパスで、会員の皆様と看護の歴史を探究し、知的・人的交流を図りたいと考えております。会員の皆様にご満足いただける学術集会となるように、企画委員一同、準備をすすめておりますので、多数のご参加をお待ち申し上げます。それでは皆様、9月の学術集会でお目にかかれることを楽しみにしております。



〈お問い合わせ先〉

〒252-0883 神奈川県藤沢市遠藤4411

慶應義塾大学看護医療学部内

日本看護歴史学会第24回学術集会事務局

TEL & FAX 0466 (49) 6267

E-mail : 24rekishi@sfc.keio.ac.jp

学会HPアドレス :

<http://24kangorekishi.sfc.keio.ac.jp/>

〈主なプログラムのご案内〉

19 日 (日)	12:30～	開場・受付	13:00～オリエンテーション
	13:10～	会長講演	「未来をひらくー看護における史実の蓄積と重要性ー」 三上れつ (慶應義塾大学看護医療学部教授)
	14:00～	特別講演	「実学をひも解くー教育の発想転換ー」 小室正紀 (慶應義塾大学経済学部長)
	14:50～	休憩	
	15:10～	教育講演 I	「女性の地位をめぐるF. ナイチンゲールとJ. S. ミル ー福澤諭吉に至る英国思想の流れからー」 白井堯子 (千葉県立衛生短期大学名誉教授)
	16:00～	教育講演 II	「医療史研究の課題ーオーラルヒストリーの意義ー」 山内慶太 (慶應義塾大学看護医療学部教授)
	16:50～	連絡事項	
	17:00～	懇親会	ファカルティクラブ「タブリエ」
20 日 (月)	9:30～	開場・受付	
	10:00～	研究発表他	口演10題・示説14題・交流セッション2題
	12:00～	ランチョン総会	学会参加者全員に昼食をご用意しております (無料)
	13:15～	ワークショップ 交流セッション	研究活動推進委員会主催「歴史研究方法のキーポイント (第2弾)」 「慶應看護」他4題
	15:00	閉会	

ワークショップ・分科会

「これだけは備えておきたい～歴史研究方法のキーポイント (第2弾)」

研究活動推進委員会 (山本 捷子・丸山マサ美)

今年のワークショップ・分科会は、総会終了後に開催します。

2010年9月20日 (月・祝) 13:15～15:00

基調講義：高橋みや子先生「歴史研究の史料の収集について」

分科会：主題や方法はさまざまですが、分科会は次のようなテーマ別にグループ・ディスカッションを行います。

- ①文学・絵画に見る看護史、②外国史・地方史・個人史、③思想・宗教、④ナイチンゲール
⑤GHQ、⑥助産師・保健師・看護師の教育と実践、⑦看護技術、⑧教育、⑨管理・制度、
⑩その他

ご自分の関心分野や抱えている課題など、忌憚なく胸襟を開いてディスカッションしましょう。

できるだけ事前にハガキかメールで参加したい分科会をお知らせください。

連絡先は 〒811-3113 古賀市千鳥1-1-7 福岡女学院看護大学 山本捷子

☎092-940-2382 (研究室直通) e-mail: s_yamamoto@fukujo.ac.jp

地方における特別講演会を次のように行います。

【日 程】2010年8月20日 (金) 18:00～19:30

【講 師】ヴォルフガング・ミヒェル先生

(前九州大学大学院言語文化研究院教授)

【テーマ】『近世の東西交流における医療と医学』

【会 場】九州大学医学部百年講堂 中ホール3

【主 催】日本医史学会福岡支部会・日本看護歴史学会

【参加費】無料

日本看護歴史学会の会員も参加できますので、お知らせいたします。

研究活動推進委員会 (丸山マサ美・山本捷子)

日本看護歴史学会第25回学術集会の開催にあたって

学術集会会長 仲里 幸子

日本看護歴史学会第25回学術集会を、2011年8月26日(金)・27日(土)の2日間、沖縄県立看護大学内(沖縄県那覇市)にて開催いたします。第25回という節目に思われます時期に我が沖縄県において開催させていただきますことをみなさまに感謝申し上げますと同時に感慨深く思います。

沖縄県は、先の大戦において甚大な人材と文化遺産を失いました。そして、戦後は米国の統治下のもとで沖縄の保健・医療・看護を立て直すという道を歩んで参りました。看護の歴史もまた米国の影響を直接的に受けてきました。この影響は、沖縄での

看護の独自の歩みを強く押し進める力の一つにもなりました。沖縄の人々の他国のいい面を受け入れ、より良く混ぜ合わせるといった要素が発揮されたのだと考えています。沖縄の複雑な歴史と共に歩んできた看護が現在の沖縄県の看護活動につながり、また語り継がれ、資料として残していく努力をこれからも続けていきたいと考えています。

海を隔てた遠路ではありますが、未来に向かっていくための看護の歴史をつくるためにもみなさまの多数のご参加・ご発表をお待ち申しあげております。


 新入会員紹介(敬称略)

*()内は会員番号

榑 恵子 (09017)
金田 俊郎 (09021)
小野 桂 (09025)
伊波 弘幸 (09029)
鈴木美智子 (09033)
廣田 和人 (10003)
岩間 節子 (10007)

芥川 清香 (09018)
石川 幸代 (09022)
矢島 道子 (09026)
崎浜ひとみ (09030)
梶原 恭子 (09034)
渡部 京子 (10004)
小池 智子 (10008)

古田 愛子 (09019)
知念 榮子 (09023)
小野若菜子 (09027)
細野 容子 (09031)
中山 和弘 (10001)
木村チヅ子 (10005)

関戸ひとみ (09020)
青木 壽子 (09024)
坪井 りえ (09028)
城ヶ端初子 (09032)
加賀谷紀子 (10002)
程塚 京子 (10006)


 お知らせ

■事務局から

平成21年度会員動向(平成22年3月31日現在)

1. 会員数(特別会員1名を含む) 327名
2. 入会者数 34名
3. 退会者数 16名

会費納入のお願い

平成22年度会費(6,000円)をまだ納入されていない会員の方はすみやかに納入をお願いいたします。事務局からお送りした払込取扱票を紛失された場合は、郵便局にある払込取扱票に口座記号番号「01010-1-52185」、金額「6000」(ただし、2年分未納の場合は12000)、加入者名「日本看護歴史学会」、通信欄に「会員番号」、ご依頼人の欄に「郵便番号・住所・氏名・電話番号」をご記入いただき払い込んでください。

所属・住所変更や退会の場合

所定の変更届や退会届(本会ホームページからダウンロードできます)を事務局にご提出ください。

編集後記

バージニア・M・オルソン先生ご逝去の記事を大石理事にお願いいたしました。私たちは、オルソン先生が戦後のわが国でGHQ看護課二代目看護課長として活躍されたことを忘れてはなりません。とくに若い人々には記憶に留め、後世に伝えていってほしいと思います。(つ)

日本看護歴史学会会報 第54号

企画・編集 坪井 良子(国際医療福祉大学大学院)
高橋みや子(京都橋大学)

発行責任者 山崎 裕二(日本赤十字看護大学)

印刷 有限会社 新和印刷

事務局 〒150-0012

東京都渋谷区広尾4-1-3

日本赤十字看護大学

山崎 裕二

TEL 03-3409-0613

e-mail yamazaki@redcross.ac.jp

川原由佳里

TEL 03-3409-0185

FAX 03-3409-0589(代表)

e-mail kawahara@redcross.ac.jp

学会HP <http://plaza.umin.ac.jp/~jahsn/>